

『廃寺は語る！よみがえる鹿児島県の仏教文化事業』 ～照信院跡発掘調査・ワクワク考古楽授業支援～

県立埋蔵文化財センター

『廃寺は語る！よみがえる鹿児島県の仏教文化事業』

鹿児島県の近代化の歴史を語る上で欠かせないテーマの1つに「廃仏毀釈」があります。

「廃仏毀釈」とは、明治政府が明治元(1868)年に出した神仏分離令を発端に起こった仏教排斥運動です。本県においては、激しい廃仏毀釈運動が展開され、当時の寺院(約1000か所)がすべて破壊されて廃寺となり、鹿児島県の仏教文化は壊滅的なダメージを受けることになりました。

本事業は、発掘調査や文献調査を行い、近代化の流れの一方で失われた寺院の状況を解明し、その存在や歴史的価値を甦らせ、調査成果を学校の授業で活用して、児童・生徒の郷土を誇り愛する心の醸成などに役立てることを目的としています。

■ 本年度の発掘調査事業

令和3年度は、指宿市岩本に所在する今和泉島津家の菩提寺である「光台寺跡」の発掘調査を行いました。2年目となる本年度は、大崎町神領に所在する「照信院跡」の発掘調査を行いました。

照信院は、和銅元年(708年)に修験道の開祖役小角の弟子である義覚上人が飯隈山を開山し、京都天台宗聖護院の末寺として南九州最大の修験道場となっていました。明治元(1868)年の廃仏毀釈により破壊され廃寺となりました。

現在では、飯隈山照信院本社があったとされる場所に熊野神社が建てられています。



【照信院跡 発掘調査の様子】

文献調査や大崎町教育委員会、地元の歴史研究会の方々からの情報提供もいただきながら、6月に1か月間の発掘調査を行いました。今後、調査の成果を「埋文だより」やホームページ等で発信していく予定です。

■ ワクワク考古楽授業支援

県内各地の小・中・高等学校に埋蔵文化財センターの専門職員が伺い、授業支援を行っています。令和3年度は、小学校16校、中学校2校、高等学校2校で実施しました。本年度は、6月現在で、小学校5校、中学校1校で実施しています。

6月に実施した始良市立山田小学校では、発掘調査の成果をもとに廃仏毀釈についての紹介や、学校近くの米丸マール(火口跡)や木佐木原遺跡について学習しました。実際に出土した遺物にも触れ、当時の生活の様子について考えることができました。



【土器や石器に触れる様子】

埋蔵文化財を自分の目で見たり、実際に触れたりすることにより、児童生徒の興味関心が高まり、さらには郷土愛が培われます。社会科をはじめ、総合学習など、様々な教科・領域で埋蔵文化財を活用した授業を行っていきたく考えています。

児童生徒への授業だけでなく、団体への研修・講座等も実施することができますので、ぜひワクワク考古楽授業支援を活用していただきたいと思います。